

東京電力ホールディングス株式会社
福島第一原子力発電所

様式0-1(1/2)

応急措置の概要(原子炉施設)

(第23835報)

2022年7月31日/4時40分

内閣総理大臣, 原子力規制委員会, 福島県知事, 大熊町長, 双葉町長 殿

第25条報告

報告者名 東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー
福島第一原子力発電所
原子力防災管理者 大野 公輔
連絡先 0240-30-9301

原子力災害対策特別措置法第25条第2項の規定に基づき、応急措置の概要を以下の通り報告します。

原子力事業所の名称及び場所	福島第一原子力発電所 福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北原22
特定事象の発生箇所(注1)	福島第一原子力発電所
特定事象の発生時刻(注1)	2011年(平成23年)3月11日 16時36分(24時間表示)
特定事象の種類(注1)	非常用炉心冷却装置注水不能 (原災法政令第6条第4項第4号, 省令第21条第1項ロ)
発生事象と対応の概要(注2)	<p>(対応日時, 対応の概要) プラント関連パラメータ、タンクエリアパトロール結果等について、下記の通りお知らせいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラント関連パラメータ [7月31日11時00分現在] ・集中廃棄物処理施設周辺サブドレン水 分析結果 [採取日 7月30日] ・構内排水路 分析結果 [採取日 7月30日] ・海水分析結果<港湾内、放水口付近> [採取日 7月30日] ・発電所敷地内におけるモニタリング結果について、前回のお知らせから有意な変動はありません。 ・タンクエリアパトロール及び汚染水タンク水位計による常時監視において、漏えい等の異常はありません。 ・建屋滞留水の移送状況について、パトロール及び警報監視において、漏えい等の異常は確認されません。 <p>サブドレン他水処理施設一時貯水タンクLの当社及び第三者機関による分析結果については、共に運用目標値を満足していたことから、8月1日に排水を実施します。 排水開始・終了の実績については、別途お知らせします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サブドレン・地下水ドレン浄化水 排水前分析結果 [採取日 7月27日] <p>【公表区分: その他】</p> <p>※添付の(有り)・無し</p>
その他の事項の対応(注3)	なし

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(注1) 最初に発生した警戒事態該当事象の発生箇所、発生時刻、種類について記載する。

(注2) 設備機器の状況、故障機器の応急復旧、拡大防止措置等の時刻、場所、内容について発生時刻順に記載する。

(注3) 緊急時対策本部の設置状況、被ばく患者発生状況等について記載する。

福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ
2022年7月31日 11:00現在

【図説参照】
各計測機については、機器やその測定の対象装置の取扱い等を受けて、通常の使用時と異なり、
停止しているものもあり、正しく測定できていない同様の数値がたまに発生している。
プラントの運転状態に応じて、このような数値の発生が必ずしも発生しえずで、後述
の計測機から得られる数値を使用して変化の傾向に注目して緊急時に判断している。

	1号機	2号機	3号機	4号機
原子炉注水状況	給水系 : 2.4 m ³ /h CS系 : 1.5 m ³ /h	給水系 : 0.0 m ³ /h CS系 : 1.6 m ³ /h	給水系 : 0.0 m ³ /h CS系 : 2.0 m ³ /h	
原子炉圧力容器底部温度	VESSEL BOTTOM HEAD (TE-263-69L1) : 26.7 ℃ 原子炉 SKIRT JOINT 上部 (TE-263-69H1) : 25.9 ℃ VESSEL DOWN COMMER (TE-263-69G2) : 26.2 ℃	VESSEL WALL ABOVE BOTTOM HEAD (TE-2-3-69H3) : 34.1 ℃ RPV温度 (TE-2-3-69R) : 37.8 ℃	スカートジャンクション上部温度 (TE-2-3-69F1) : 30.4 ℃ RPV底部ハット上部温度 (TE-2-3-69H1) : 30.4 ℃	
原子炉格納容器内温度	HVH-12A RETURN AIR (TE-1625A) : 26.2 ℃ HVH-12A SUPPLY AIR (TE-1625F) : 26.2 ℃	RETURN AIR DRYWELL COOLER (TE-16-114B) : 34.4 ℃ SUPPLY AIR D/W COOLER HVH2-168 (TE-16-114G#1) : 34.3 ℃	PCV温度 (TE-16-002) : 28.6 ℃ 格納容器空冷供給空気温度 (TE-16-114F#1) : 29.9 ℃	
原子炉格納容器圧力	0.12 kPa g	4.07 kPa g	0.43 kPa g	
窒素封入流量 ※3	RPV (RVH-A) : - Nm ³ /h (RVH-B) : 15.25 Nm ³ /h (JP-A) : 14.48 Nm ³ /h (JP-B) : - Nm ³ /h PCV : - Nm ³ /h ※4	RPV-A : 6.52 Nm ³ /h RPV-B : 6.27 Nm ³ /h PCV : - Nm ³ /h ※4	RPV-A : - Nm ³ /h RPV-B : 16.26 Nm ³ /h PCV : - Nm ³ /h ※4	
原子炉格納容器ガス管理システム排気流量	256 m ³ /h	12.72 Nm ³ /h	20.45 Nm ³ /h	
原子炉格納容器水素濃度 ※1	A系 : 0.00 vol% B系 : 0.00 vol%	A系 : 0.09 vol% B系 : 0.11 vol%	A系 : 0.10 vol% B系 : 0.09 vol%	
原子炉格納容器放射能濃度 (Xe135) ※2	A系 : 指示値 8.03E-04 Bq/cm ³ 検出限界値 4.81E-04 B系 : 指示値 7.42E-04 Bq/cm ³ 検出限界値 3.94E-04	A系 : 指示値 ND Bq/cm ³ 検出限界値 1.2E-01 B系 : 指示値 ND Bq/cm ³ 検出限界値 1.3E-01	A系 : 指示値 ND Bq/cm ³ 検出限界値 1.9E-01 B系 : 指示値 ND Bq/cm ³ 検出限界値 1.9E-01	
使用済燃料プール水温度	36.3 ℃	32.3 ℃	※5	※5
FPC及びその貯水水位	4.17 m	3.69 m	- m	67.0 X100mm ※6

【図説参照】
※1 : 福島第一原子力発電所00号機に適用する。格納容器の排気（排気）中は、格納容器よりマイナス表示される場合がある。
※2 : 原子炉格納容器内の放射能濃度を測定する。
※3 : 原子炉格納容器内を窒素で満たすための流量。
※4 : 原子炉格納容器内を窒素で満たすための流量。
※5 : 原子炉格納容器内の放射能濃度を測定する。
※6 : 注水用貯水池の水位。

3/6

2022年7月31日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

集中廃棄物処理施設周辺サブドレン水 分析結果 (γ)

採取地点	採取日時	分析項目		
		I-131 (Bq/L)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
4号T/B建屋南東	2022/07/30 06:55	< 4.3E+00	< 4.4E+00	< 3.9E+00
プロセス主建屋北東	2022/07/30 07:05	< 4.5E+00	< 4.4E+00	< 3.9E+00
プロセス主建屋南東	2022/07/30 07:15	< 3.9E+00	< 4.6E+00	< 3.4E+00
雑固体廃棄物減容処理建屋南	2022/07/30 07:25	< 5.4E+00	< 4.3E+00	< 3.9E+00
サイトバンカ建屋南西	—	—	—	—
焼却工建屋西側	2022/07/30 07:30	< 5.8E+00	< 5.4E+00	4.0E+01
雑固体廃棄物減容処理建屋北	2022/07/30 07:20	< 5.1E+00	< 4.2E+00	< 3.4E+00
サイトバンカ建屋南東	2022/07/30 07:10	< 4.5E+00	< 4.8E+00	< 4.6E+00

・核種毎の半減期：I-131(約8日)、Cs-134(約2年)、Cs-137(約30年)

・不等号 (<:小なり) は、検出限界値未満 (ND)を表す。

・測定対象外および採取中止の項目は「—」と記す。

・O.OE±0とは、 0.0×10^{00} であることを意味する。

(例) 3.1E+01は 3.1×10^1 で31, 3.1E+00は 3.1×10^0 で3.1, 3.1E-01は 3.1×10^{-1} で0.31と読む。

・サイトバンカ建屋南西は、1回/週程度の頻度で分析を実施。

4/6

2022年7月31日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一原子力発電所推進センター

構内排水路 分析結果 (全β・γ)

採取地点	採取日時	分析項目		
		全β (Bq/L)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
A排水路	2022/07/30 07:12	4.2E+00	< 7.9E-01	4.2E+00
物置場排水路	2022/07/30 07:15	< 3.4E+00	< 1.0E+00	1.6E+00
K排水路	2022/07/30 06:00	9.8E+00	< 7.0E-01	6.7E+00
BC排水路	2022/07/30 06:00	< 3.4E+00	< 5.9E-01	< 6.4E-01
5,6号機排水路※1	—	—	—	—

・核種の半減期：Cs-134(約2年), Cs-137(約30年)

・不等号 (<:小なり) は、検出限界値未満 (ND)を表す。

・測定対象外および採取中止の項目は「—」と記す。

・O.OE±Oとは、O.O×10^{±O}であることを意味する。

(例) 3.1E+01は3.1×10¹で31, 3.1E+00は3.1×10⁰で3.1, 3.1E-01は3.1×10⁻¹で0.31と読む。

・採取当日の降雨量は0 mm

・排水路流量情報は、解析中のため後日公表する。

※1 5,6号機排水路は1回/月に分析を実施。

5/6

2022年7月31日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

海水分析結果<港湾内, 放水口付近> (全β・γ)

試料名称	採取日時	分析項目		
		全β (Bq/L)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
1F 5,6号機放水口北側 (T-1)	2022/07/30 07:56	—	< 6.0E-01	< 7.5E-01
1F 6号機取水口前	2022/07/30 07:45	< 1.1E+01	< 3.2E-01	< 3.1E-01
1F 物揚場前	2022/07/30 07:20	< 1.1E+01	< 3.0E-01	4.5E-01
1F 1~4号機取水口内北側 (東波除堤北側)	2022/07/30 07:30	< 1.3E+01	< 3.1E-01	2.1E+00
1F 1~4号機取水口内南側 (返水壁前)	2022/07/30 07:25	< 1.1E+01	< 3.4E-01	3.2E+00
1F 南放水口付近 (T-2) ※	2022/07/30 09:15	1.5E+01	< 6.6E-01	< 7.8E-01
1F 港湾口 (T-0)	2022/07/30 06:26	< 1.2E+01	< 2.7E-01	< 2.8E-01
1F 港湾中央	2022/07/30 06:22	< 1.2E+01	< 3.3E-01	< 3.9E-01
1F 港湾内東側	2022/07/30 06:24	< 1.5E+01	< 2.4E-01	< 3.2E-01
1F 港湾内西側	2022/07/30 06:20	1.6E+01	< 3.3E-01	4.1E-01
1F 港湾内北側	2022/07/30 06:18	< 1.5E+01	< 2.5E-01	5.5E-01
1F 港湾内南側	2022/07/30 06:28	< 1.5E+01	< 2.5E-01	< 2.9E-01
1F 北防波堤北側 (T-0-1)	—	—	—	—
1F 港湾口北東側 (T-0-1A)	—	—	—	—
1F 港湾口東側 (T-0-2)	—	—	—	—
1F 港湾口南東側 (T-0-3A)	—	—	—	—
1F 南防波堤南側 (T-0-3)	—	—	—	—
WHOの飲料水水質ガイドライン※1			1.0E+01	1.0E+01

・核種毎の半減期：Cs-134(約2年), Cs-137(約30年)

・不符号 (< ; 小なり) は, 検出限界値未満 (ND) を表す。

・測定対象外および採取中止の項目は「—」と記す。

・〇.〇E±〇とは, 〇.〇×10^{±〇}であることを意味する。

(例) 3.1E+01は3.1×10¹で31, 3.1E+00は3.1×10⁰で3.1, 3.1E-01は3.1×10⁻¹で0.31と読む。

・物揚場前は, シルトフェンス開閉を行った日は開閉実施後にもサンプリングを実施。

※1 WHOの飲料水水質ガイドラインにおける, Cs-134, Cs-137の指標

・分析結果の詳面については「福島第一原子力発電所の状況について(日報)」を参照 <https://www.tepco.co.jp/press/report/>

※試料採取作業の安全確保ができないため、採取地点を1~4号機放水口から南側に約1300mの地点に一時的に変更。

2022年7月31日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一原子力発電所

サブドレン・地下水ドレン浄化水 排水前分析結果

試料名称	採取日時	貯水量 (m ³)	分析機関	分析項目				
				全β (Bq/L)	H-3 (Bq/L)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	その他 核種
一時貯水タンク (サンプルタンク)	2022/07/27 06:55	940	東京電力 東北環境保全(株)	< 1.7E+00	6.9E+02	< 7.7E-01	< 6.0E-01	検出なし
				< 3.7E-01	7.3E+02	< 5.6E-01	< 6.6E-01	検出なし
	運用目標			3.0E+00 (1.0E+00) ※1	1.5E+03	1.0E+00	1.0E+00	検出されないこと※2
	告示濃度限度※3				6.0E+04	6.0E+01	9.0E+01	
	WHO飲料水水质ガイドライン				1.0E+04	1.0E+01	1.0E+01	

・核種の半減期：H-3(約12年), Cs-134(約2年), Cs-137(約30年)

・不等号 (< ; 小なり) は、検出限界値未満 (ND)を表す。

・0.0E±0とは、0.0×10^{±0}であることを意味する。

(例) 3.1E+01は3.1×10¹で31, 3.1E+00は3.1×10⁰で3.1, 3.1E-01は3.1×10⁻¹で0.31と読む。

※1 運用目標の全βについては、10日に1回程度、検出限界値を1 Bq/L以下に下げて分析を実施。

※2 Cs-134, Cs-137の検出限界値「1Bq/L未満」を確認する測定にて検出されないこと(天然核種を除く)。

※3 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子力施設保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則に定める告示濃度限度
(別表第一第六欄：周辺監視区域外の水中の濃度限度[本表では、Bq/cm³の表記をBq/Lに換算した値を記載])

6/6

東京電力ホールディングス株式会社
福島第一原子力発電所

様式9-1 (1/2)

応急措置の概要 (原子炉施設)

(第23836報)

2022年7月31日 14時40分

内閣総理大臣, 原子力規制委員会, 福島県知事, 大熊町長, 双葉町長 殿

第25条報告

報告者名 東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー
福島第一原子力発電所
原子力防災管理者 大野 公輔

連絡先 0240-30-9301

原子力災害対策特別措置法第25条第2項の規定に基づき、応急措置の概要を以下の通り報告します。

原子力事業所の名称及び場所	福島第一原子力発電所 福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北原22
特定事象の発生箇所(注1)	福島第一原子力発電所
特定事象の発生時刻(注1)	2011年(平成23年)3月11日 16時36分(24時間表示)
特定事象の種類(注1)	非常用炉心冷却装置注水不能 (原災法政令第6条第4項第4号, 省令第21条第1項ロ) (対応日時, 対応の概要)
発生事象と対応の概要(注2)	<p>第8137報他でお知らせした、1号機放水路上流側立坑においてCs-137の濃度が上昇した事象、及び第10182報他でお知らせした、2号機放水路上流側立坑において全ベータ放射能及びトリチウム濃度が上昇した事象について、1号機及び2号機放水路上流側立坑水の分析を実施しましたので、以下のとおり報告します。</p> <p>・1号機、2号機放水路 分析結果 [採取日 7月29日]</p> <p>今回の分析結果については、至近の分析結果と比較して有意な変動はありませんでした。今後も監視を継続していきます。</p> <p>【公表区分：その他】</p> <p>※添付の(有り)・無し</p>
その他の事項の対応(注3)	なし

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(注1) 最初に発生した警戒事態該当事象の発生箇所、発生時刻、種類について記載する。

(注2) 設備機器の状況、故障機器の応急復旧、拡大防止措置等の時刻、場所、内容について発生時刻順に記載する。

(注3) 緊急時対策本部の設置状況、被ばく患者発生状況等について記載する。

2022年7月31日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

1号機, 2号機放水路 分析結果

採取地点	採取日時	分析項目			
		全β (Bq/L)	H-3 (Bq/L)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
1号機放水路立坑水	上流側	4.7E+03	< 1.0E+02	1.2E+02	4.3E+03
	下流側	2.3E+03	5.8E+02	1.9E+01	7.6E+02
2号機放水路立坑水	上流側	1.6E+03	< 1.0E+02	2.3E+01	9.1E+02
	下流側	1.1E+02	< 1.0E+02	< 6.1E+00	4.2E+01

・核種毎の半減期：H-3(約12年), Cs-134(約2年), Cs-137(約30年)

・不等号 (<:小なり) は, 検出限界値未満 (ND) を表す。

・測定対象外および採取中止の項目は「-」と記す。

・O.OE±Oとは, $O.O \times 10^{+O}$ であることを意味する。

(例) 3.1E+01は 3.1×10^1 で31, 3.1E+00は 3.1×10^0 で3.1, 3.1E-01は 3.1×10^{-1} で0.31と読む。

2/2

東京電力ホールディングス株式会社
福島第一原子力発電所

様式0-1(1/2)

応急措置の概要(原子炉施設)

(第23837報)

2022年7月31日/17時20分

内閣総理大臣, 原子力規制委員会, 福島県知事, 大熊町長, 双葉町長 殿

第25条報告

報告者名 東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー
福島第一原子力発電所
原子力防災管理者 大野 公輔
連絡先 0240-30-9301

原子力災害対策特別措置法第25条第2項の規定に基づき、応急措置の概要を以下の通り報告します。

原子力事業所の名称及び場所	福島第一原子力発電所 福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北原22
特定事象の発生箇所(注1)	福島第一原子力発電所
特定事象の発生時刻(注1)	2011年(平成23年)3月11日 16時36分(24時間表示)
特定事象の種類(注1)	非常用炉心冷却装置注水不能 (原災法政令第6条第4項第4号, 省令第21条第1項ロ) (対応日時, 対応の概要)
発生事象と対応の概要(注2)	<p>第23833報でお知らせしたとおり、サブドレン他水処理施設一時貯水タンクDに貯水していた水について、本日以下のとおり排水を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排水開始 : 10時14分 ・排水終了 : 16時45分 ・排水量 : 971m³ <p>排水状況については、漏えい等の異常がないことを確認しております。</p> <p>【公表区分：E】</p>
その他の事項の対応(注3)	なし

※添付の有無 無し

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(注1) 最初に発生した警戒事象該当事象の発生箇所、発生時刻、種類について記載する。

(注2) 設備機器の状況、故障機器の応急復旧、拡大防止措置等の時刻、場所、内容について発生時刻順に記載する。

(注3) 緊急時対策本部の設置状況、被ばく患者発生状況等について記載する。